報告

# 第 1 回技術者倫理ワークショップ

倫理委員会委員長　佐　崎　雅　史

## はじめに

第 1 回技術者倫理ワークショップが、全国大会の前日の 10 月 3 日に開催されました。時間は午後 1 時半から 5 時までで参加者は約 100 名と大盛況の中行われました。これは昨年までは、午前中が技術者倫理研究・全国情報交換会で、午後からは事例研究発表大会と 2 部構成で、全国大会が行われる各地方本部が開催していたものを、今年から統括本部主催で時間を短縮してワークショップ形式で開催されることになったものです。

## 1．技術者倫理活動報告

日本技術士会の吉田会長の開会あいさつに続いて、第一部の技術者倫理活動報告が行われました。

### (1) 統括本部報告

最初に統括本部倫理委員会の林委員長から活動報告がありました。

写真 1．統括本部林委員長

まず、この第 1 回ワークショップへの参加のお礼からはじまり、今年度の活動としてシンポジウムの開催やウェブによる連続セミナーの実施や事例集の発刊、月刊「技術士」への報文の掲載や技術者倫理の啓発を含む今後の活動予定などを発表して報告は終了しました。統括本部の非常に熱心で積極的な活動状況に大いに感心させられました。

### (2) 北海道本部報告

続いて開催地である北海道本部の倫理委員会を代表して私が最近の活動状況を報告しました。まず、2ヶ月に 1 回の定例会とその間の月に行われる幹事会の概要を説明しました。昨年度から定例会で実施していた「土木技術者の倫理」の残りの章の勉強会が前半に終了したので、後半からは各委員に技術者倫理に関する話題提供を行ってもらい、それについて議論を深めていくという新たな形式に取り組むことにしました。

写真 2．北海道本部活動報告

第 1 回の「生命倫理」と第 2 回の「社会活動と企業倫理」が終わり、第 3 回は「原発問題」を予定している旨の説明を行いました。特に第 1 回の「生命倫理」において一般倫理と技術者倫理と宗教的倫理および生命倫理の相互関係について議論が百出しましたので、その代表的な考え方を定例会での議論の一例として紹介しました。実は説明する本人がよく理解できていないので、聞いている参加者の怪訝そうな表情が気の毒でもあり、発表者も冷や汗ものでしたので、そこは一気にすっ飛ばしました。

次に年に 1 回行われる技術者倫理フォーラムが 80 名という多数の参加者を得て開催されたことを報告しました。基調講演は、「組織としての技術倫

理における企業倫理憲章の活用」と題して中部 ET の会の水野代表幹事にご講演いただき、質疑応答の最後は「部下の指導に大変参考になりました」との謝辞で締められたことを紹介しました。次に 4 人の委員による 2 件の事例研究報告があり、活発な質疑応答が行われて技術者倫理への関心の高さがうかがわれ、今年のフォーラムも大成功の裡に終わることができたことを報告しました。

日頃の広報活動としては、北海道本部のホームページに活動内容や今後の予定や入会案内などを掲載して順次更新していることや、会報「コンサルタンツ北海道」に活動報告を行って本部会員の技術者倫理の啓蒙活動を実施している旨を説明しました。

最後に北海道本部の倫理研究会（倫理委員会の前身）の活動が区切りの 2 期 4 年に達したのでその間の活動状況を取りまとめた「第 1 期活動報告書」を発行したことを紹介して北海道本部の活動報告を終了しました。

**(3) 近畿本部報告**

活動報告の最後は昨年全国大会を開催した近畿本部によって行われました。

**写真 3. 近畿本部田岡幹事**

定例会は、エネルギーや原発、鉄道事故、倫理教育、環境問題など種々のテーマで毎月実施していると聞き、2ヶ月に一度の我々と違い非常に熱心な活動状況であることがうかがい知れました。また、大学や高専での技術者倫理教育の実施や技術者 CPD 講座の開催や各種団体における講演会なども盛んで幅広い活動や人材の豊富さにも驚かされました。しかし、我々としてはうらやましく思いながらも、まだ発足して 5 年目であり、他の地域本部の活動を勉強しつつ、これからも地道な活動を続けて一歩一歩発展していこうと実感した次第です。

## 2. 講演会

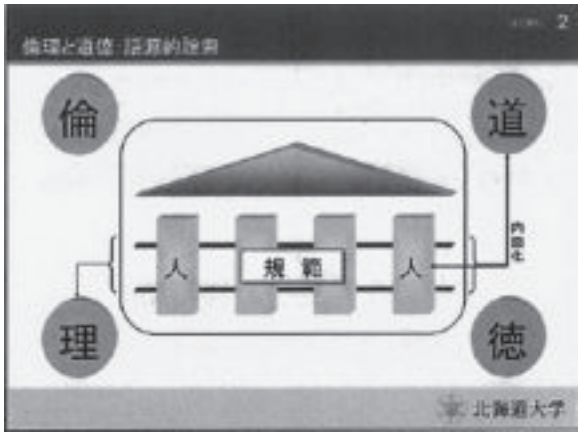
活動報告が終わり、休憩をはさんで第二部の倫理教育をテーマとした 2 件の講演が行われました。以下にその概要を報告します。

**(1) 次世代技術者の倫理教育**

一件目は、表記のタイトルで応用倫理学の第一人者である新田孝彦北大副学長にご講演いただきました。

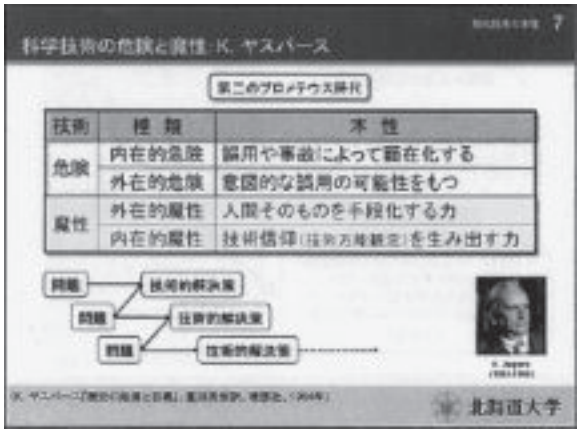
**写真 4. 新田孝彦北大副学長**

まず最初は、「倫理の“倫”は人々の集まりを意味し、“理”とはことわりである。それを内面化したものが道徳であってそれによって人としての規範ができていく」という説明から始まりました。



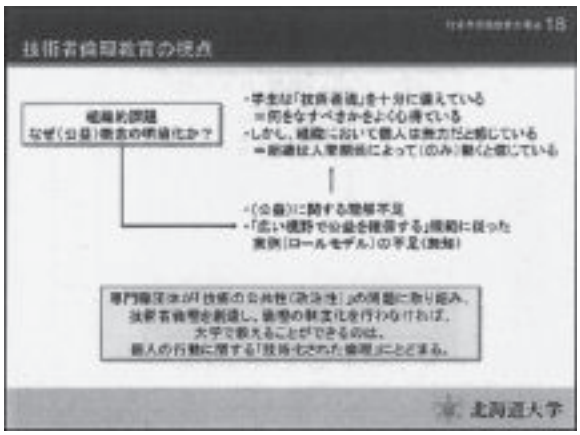

**PPT1. 倫理と道徳**

次に科学技術の本質について説明があり、その中で興味深かったのが、K. ヤスパースの科学技術の危険と魔性というお話でした。




**PPT2. 科学技術の危険と魔性**

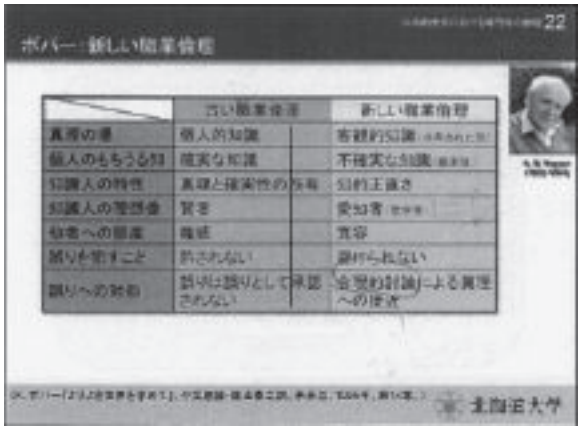
「科学技術には危険と魔性という 2 面性が潜んでいて、その内の危険には誤用や事故によって顕在化する内在的危険と意図的誤用の可能性がある外在的危険がある。また、魔性には人間を手段としてしまう外在的なものと技術万能と錯覚させる内在的な魔性を含んでいる。つまり、システムが主で人間はその従属関係にあり、そのような社会では、ある問題が解決されてもそれによって必ず次の違う問題が発生して、その連鎖は果てしなく続いていく、とヤスパースは唱えている」と説明されました。これはまさに現代社会に通ずるものがあり、こんなことが 50 年も前に提唱されていたとは本当に驚きました。




**PPT3. 技術者倫理教育の視点**

それから、現代に至るまでの専門職の概念の変容や現代における専門職の苦境について説明され、続いて、専門家と非専門家の関係や技術者倫理教育のお話をされた後、最後はポパーの三世界モデルと新しい職業倫理のお話で締められ、物理的世界の古い職業倫理と倫理的内容の世界の新しい職業倫理の対比は非常に興味深いものでした。

**PPT4. 三世界モデル**




**PPT5. 新しい職業倫理**

その中でも特に「知識人の理想像は、古い職業倫理では賢者であるのに対し、新しい職業倫理では愛知者即ち哲学する技術者であり、誤りの対処においては前者は誤りを認めないのに対し、後者では合理的討論による真理への接近を目指した協同型モデルである」という説明に大変感銘を受けました。

新田先生は非常に分かりやすく説明されておられましたが、哲学者でもある先生の発表にこの老いた鈍い頭がついていけない所も多々あり、この報告も誤解に満ちた部分が数多くあるものと思いまして、その点を先生に深く陳謝してこの講演の紹介を終わります。

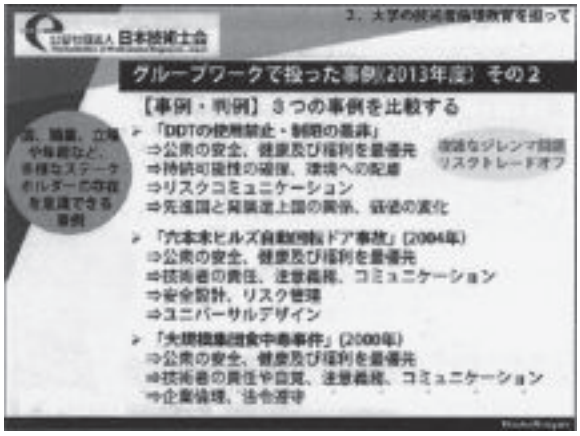
### (2) 技術士による技術者倫理教育の現場から

続いて、表記のタイトルに副題―大学の技術者倫理教育を担って―と題して、千葉大学と東海大学の非常勤講師である峰岸律子技術士にご講演いただきました。

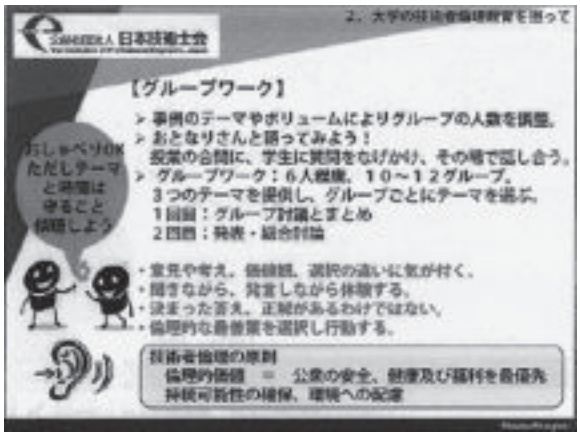
写真 5．峰岸律子技術士

最初に、倫理教育に携わるきっかけとなった建設コンサルタント時代の緑地開発の経験から講演が始まりました。このときの科学技術だけでは解決できない倫理的思考をこれから社会に出ていく学生に教えていこうとの思いから大学の教壇に立たれることになったそうです。

授業で重点をおいたのは事例の活用とグループワークだそうです。

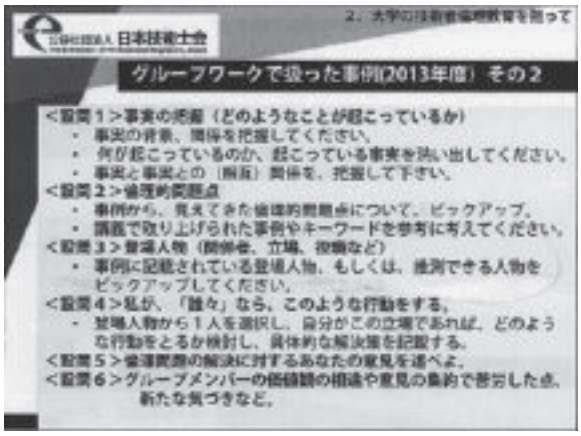



PPT6．事例



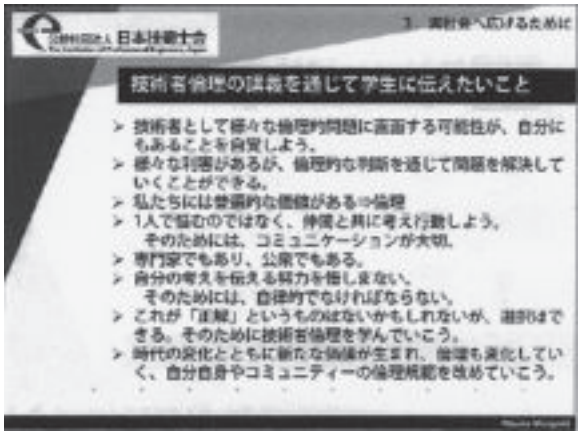

PPT7．グループワーク

事例に対する設問は以下のようなものだったそうです。




PPT8．事例に対する設問

そして、最終的に学生に伝えたいことは以下のようなことで、ここは特に力を込めて発表されていました。




PPT9．倫理教育で学生に伝えたいこと

非常に熱心な教育姿勢がうかがえ、我々が講義を受け持つような機会が生じた時、大変参考になる講演だったと感じました。

そして、二つの講演で共通するのは、我々技術者が科学万能という思想に陥ることへの警鐘をならすことだったように思いました。

**佐　崎　雅　史**（さざき　まさふみ）
技術士（建設／総合技術監理部門）

日本技術士会北海道本部
倫理委員会委員長
株式会社　ユニオン・コンサルタント